

---

trick or treat

風矢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

t r i c k o r t r e a t

### 【Nコード】

N 3 3 9 8 Y

### 【作者名】

風矢

### 【あらすじ】

今日は待ちに待ったハロウィンの日。

今日は待ちに待ったハロウィンの日。

ボクはとっても甘いあまあいものが大好きなんだけど、

それをくれる人は思ったほど多くない。

いくつもの家をまわってみたけれど全然足りない。

そんな時、森の奥の方から声が聞こえた。

「甘いお菓子が欲しいのかい？ だったらこっちにおいでよ。」

その声はとても甘い声だと思った。

ボクの足は自然と森の奥へと進んでいく。

そこにはボクよりも少し大きいくらいの子がいた。

「お菓子は奥の小屋にあるから、一緒に行こうよ。」

その子に引かれるままに森の奥深くへと入っていく。

この森は甘い香りに包まれていてとても眠い。

「眠っていてもいいよ。ちゃんと手を引いてあげるからね。」

気づいたら目の前には古びた小屋があった。

どろぢやらこの子が言っていた小屋はこれのことらしい。

ボクは今更ながらお決まりの台詞を言う。

「とりつく おあ とりーと?」

するとその子は少しだけ吹き出して、

「ふふ、どんなイタズラをするのかも興味はあるけど甘いお菓子の方が嬉しいかな?」

とても歳相応とは思えないような笑顔だった。

「さあさ、寒いから中にお入り。ここはとても暖かいから。」

招かれて入った家はとても暖かく、おまけに美味しそうな食事も用意されていた。

でも、お菓子のようなものは見当たらない。

「ああ、お腹も空いただろう? 甘いお菓子はその後にしよつよ。」

ボクは我慢することにして先に用意されていたものを食べることにした。

テーブルについた瞬間、

カチリ

と鍵のかかった音が聞こえた。

思わずその子の顔を見ると、

「久しぶりのご飯を逃がすわけないだろう？」

その顔はととてもとても甘そうだった。

その後に残っているものを考えると身体が震えてくる。

ウレシサで。

思った通り、その子の頭はとっても甘いあまあい味がした。

END

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3398y/>

---

trick or treat

2011年11月8日04時13分発行